様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２９ 年　 ６ 月 ３０ 日現在

機関番号：３４４１５
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2014～2016
課題番号：２６３７０８４３

研究課題名（和文）大清帝国における国境形成史研究

研究課題名（英文）The History of Border Formation in the Great Qing Empire

研究代表者
承　志（CHENG, ZHI）

追手門学院大学・国際教養学部・准教授

研究者番号：８０４５５２２９

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,800,000円

研究成果の概要（和文）：17世紀から20世紀に至るまで満洲語で描かれた世界図を含め、これまで未解読だったさまざまな満洲語の古文書・古地図を中心に大清国における国境形成の歴史を分析することができた。清代宮中の地図作製機関である造弁処輿図房において、多くの官製地図が作製されていたことを明らかにした。さらに、国内外所蔵の満洲語地図と文書を中心に、大清国とロシアとの間に締結されたネルチンスク条約、キャフタ条約、大清国とジューンガルとの国境交渉の過程を検討し、国境を設定するときに、地理情報や自然環境に基づき、山脈と河川を中心に分ける基準とした歴史を明らかにした。

研究成果の概要（英文）：Using primarily various unread historical documents and maps in the Manchu language written from the 17th until the 20th century and contained in collections worldwide, including Manchu world maps, I analyzed the history of border formation in the Great Qing. I have brought to light that many of these official maps were made in the Department of Cartography in the Workshop of the Imperial Household (ba na i nirugan i nirure boo). Furthermore, by examing the Treaty of Nerchinsk and the Treaty of Kyakhta concluded between the Qing Empire and the Russian Empire and the border negocation processes between the Qing Empire and the Jungar Empire, I have made clear historically that when borders were established they were based on geographical information and the natural environment with mountain ranges and rivers being the primary standard of division.

研究分野：大清帝国史

キーワード：大清国　地図作製　国境　満洲語档案

科学研究費助成事業　研究成果報告書

平成 29 年 6 月 29 日現在

１．研究開始当初の背景

1911 年以降の「中国」における「清朝史」研究は、夷狄である満洲人を「駆逐」する大漢族主義による国家建設の意図的な規制、指導のもとに展開されてきた。言いかえれば「中国」を定義するために着手された歴史研究であった。そこでは、支配者たる満洲人は腐敗、殺戮、強権、野蛮という負のイメージで語られてきた。国内外の研究者によれば、「中華」の意識、ナショナリズムに偏重し、立脚した言説が多く見られ、こうした流れの中で、大清国時代に作成された満洲語の文書資料の全貌を解明されることはなかった。

２．研究の目的

本研究では、満洲語の地図作成と国境交渉に関する文書を収集し、大清国時代においては、外国とはどのように国境交渉が行われていたか、その全体像を把握することを目的とする。このため、(1)国内外の満洲語地図の調査を行い、その保存状況とリストを作成する。(2)収集した地図データと満洲語の文書群と合わせて比較検討を行う。(3)第一次資料を用いて、いわゆる「中国史」からの脱却、近世、近代の国境形成史をいまいちど見つめ直すことが目的である。

３．研究の方法

(1) 16 世紀に勃興、17 世紀から 20 世紀初頭までユーラシア東方に君臨した帝国大清国の歴史を、従来まったく手付かずといっていい膨大な満洲語档案をはじめ、さまざまな言語で書かれた文献、絵図、地図などあらゆる一次資料を用いながら、多角的かつ詳細に検討する。

(2)26 年度は日本国内においては東洋文庫、国立国会図書館所蔵の地図や文書資料の調査を行い、海外においては台湾と中国国家図書館所蔵の古地図資料を収集した。これらのデータの目録を作成して、以下の作業を行った。

①17 世紀から 20 世紀後半まで作成された古地図データの分析を行った。具体的には国境交渉と関係ある個別の古地図の地名解読、古地図模写・地名対照表および地図作成された歴史的な背景を明らかにした。

②古地図と関連する古文書データ入力と翻訳を行い、研究論文を執筆した。

(3)27 年度は台北国立故宮博物院所蔵の康熙朝・雍正朝・乾隆朝に作製された中央アジアに関する地図の分析を行い、満洲語档案史料から国境交渉と地図作製に関するデータを抽出して、総合的に解読・分析を行った。

(4)28 年度は、これまで網羅的に収集した基礎資料を分析して学術論文を執筆し、その成果を学術雑誌に発表した。このほか、2016 年 1 月 23 日に、国際ワークショップ「ジューンガルに関する歴史研究最前線」を京都で開催し、その内容が『読売新聞』（2016 年 2 月 8 日夕刊）に取り上げられ、研究成果を専門の研究者だけではなく、社会にも発信することができた。また、2016 年 8 月 6 日～12 日の間に「満洲語文語夏季講座 2016」を主催し、これまでの研究成果を 30 名の受講者たちに紹介した。

2016 年 8 月 24 日～28 日に中国で主催した国際学会「第二回国際満文学術研討会」で研究成果を報告した。

４．研究成果

これまでの研究成果としては、ネルチンスク条約締結に関する満洲語档案資料を多く発見した。これによってロシアと大清国の間で、当初使用された言語は満洲語とモンゴル語、ロシア語であり、最後まで中国語（漢語）は使用されなかったことが判明した。1676 年、ロシアの要求によりラテン語訳の副本を付けるようになった。

このほか、ネルチンスク条約の会談の中で中国側が使った地図がランタンの地図（すなわち『吉林九河図』）であることになり、これは明らかな誤解である。この「吉林九河図」の発見者である吉田金一が最初に推測したとおり、このマンジュ語で書かれた地図には、原図が存在していた。それはすなわち現在台北国立故宮博物院に所蔵されているマンジュ語の「口外九大人図」である。本研究のもうひとつの重要な成果は、筆者は「口外九大人図」上の地名を解読し、その内容が「吉林九河図」とほぼ同じであることを明らかにした。

ランタン図の地名及び河川の表記については、直接地図の上に写した地名と赤色や薄い黄色の付箋を貼付した地名という異なる地名表記併存しているが、これはこの地図を作製する過程において、異なる二種類の表現がなされたということを示している。マンジュ語檔案を調査したところ、赤色と薄い黄色の付箋で貼付された地名は、1710 年に新たに調査して増補した地名であるとわかった。このように推定する主な要因は、郎談が作製した原図は、『吉林九河図』ではなく、現在台北国立故宮博物院所蔵の『口外九大人図』（平図 021577）こそがそれであるということが判明したからである。『黒龍江将軍衙門檔案』の康熙四十九年の檔案の記載によると、この年は『大清一統志』を編纂するために、『内大臣だった郎談たちが描いて持ってきた九路の図(dorgi amban bihe langtan sei nirufi gajiha uyun jugūn i nirugan)』と『都統だ

った巴海が描いて持ってきた図(gūsai ejen bihe bahai nirufi gajiha nirugan)』に関する文書と地図を黒龍江将軍の所に送り、これらに基づいて再び新しい地名や河川の地理調査を行ったことを明らかにした。

1690 年に作製された輿図資料は、通常はマンジュ語の上奏文と輿図とは一緒に提出するため、輿図の上には地図の名前および年代などの情報の記載がなく、必要な情報は、基本的にみな文書の中に詳しく記されていた。そこで、のちにこれらの原図を新たに模写したときには、基本的に地図上に原図の名前と新たに模写した年代が明記されたのである。筆者が発見した台北国立故宮博物院所蔵の『烏喇等処地方図』と中国国家図書館所蔵の『黒龍江図』も同一内容の地図であることが判明したが、これはこうした問題を理解する上で重要な意義を持っている 。すなわち同内容の二つのマンジュ語地図は、中国国家図書館所蔵『黒龍江図』の左上にマンジュ語で「都統だったバハイが描いて持ってきた図（gūsai ejen bihe bahai nirufi gajiha nirugan)」と記されている。これはすなわちこの地図の名前である。地図の裏の左下には漢字で「原任都統巴海画来図　五十年十二月十三日」と書いてある。これはこの地図が『都統だったバハイが描いて持ってきた図』の原図に基づいて作製された模写図であることを明らかに示している。

また、この地図に書かれた年代も「都統だったランタンたちが描いて持ってきた九路の図」（すなわち『吉林九河図』）の年代である「五十年十二月十三日」と一致する。これは模写図である『黒龍江図』と『吉林九河図』が同じ年に作製されたことを証明している。これらの模写図は作製後、みな地図の名前と作製年代を明記したのである。1710 年に黒龍江流域を調査したあと、調査隊があらためていくつか新しい河川などを発見した 。『吉林九河図』は 1710 年に調査し得た新しい地名を、付箋に記して貼付の形で地図の上に貼り付けた。原図である『口外九大人図』では地名はマンジュ語で付箋に記し、これを貼付するかたちで示していた。『吉林九河図』は『口外九大人図』にある地名をまず、調査で得た地名を付箋で貼付した。細長い四角枠の中にマンジュ語で記し、それから新しい調査で得た地名を付箋で貼付したことを明らかにした。

ロシアで作製されたシベリア古地図が大清国に伝わっていたことを知るための重要な手がかりを提供する一枚の地図について、筆者が台北国立故宮博物院で、マンジュ語の古地図を閲覧、解読していたときに発見した『亜洲西北河流図』（漢文、彩色、紙本）で、これは『シベリア地図』（ч е р т е ж с и б и р и、1673）の漢文翻訳版である。

『シベリア地図』（1673）は、1676 年にロシアが大清国の都・北京に派遣した使者スパファリ（С п а ф а р и）のために用意された地図である。そのため、この『シベリア地図』ユーラシア北東部が他の場所よりやや詳しく描かれている 。台北国立故宮博物院蔵の『亜洲西北河流図』には題名が記されておらず、『亜洲西北河流図』という名前は、おそらく後世の整理者によるものと思われる。現状からみると、『亜洲西北河流図』はおそらくもっと広域の地図であったと思われる。この『亜洲西北河流図』は、縦 66㎝、横 97㎝、地名は漢文で書かれている。

本研究の原図調査によると、多くの都市の名前はすべてロシア語の地名に「城」という漢字が書き加えられている。地名はすべてロシア語の『シベリア地図』の中部地域を中国語に翻訳したものである。原図であるロシア語の地図には山脈などが描かれていないが、漢文地図は作製する過程で中国の伝統的な輿図の手法をとっており、特に湖泊や波浪の描き方が、ロシア作製の『シベリア地図』とははっきり異なる 。この『亜洲西北河流図』は、『シベリア地図』が北京にもたらされて、大清国の手に渡った後、これに基づいて作製された『シベリア地図』上の注記が中国語に翻訳され、新たに中国の山水画風に描きなおされていることも明らかにした。

また、本研究において 1727 年に露清間に締結されたキャフタ条約の国境交渉過程も明らかにした。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計 6 件）

① 承　志、十八世紀准噶爾十六大鄂拓克一克呼特鄂拓克探析（続二）、衛拉特研究、査読有、第 3 期、2017、 1-36
② 承　志、尼布楚條約相關文書探析-以滿文界碑文書為中心、清史論叢、査読有、総第 30 輯、2016、265-297
③ 承　志、満文档案所見厄魯特源流、衛拉特研究、査読有、第 1 輯、2015、1-16
④ 承　志、十八世紀准噶爾十六大鄂拓克一烏嚕特鄂拓克探析（続一）、査読有、蒙古学問題與争論、第 11 期、2015、 80-105
⑤ 承　志、阿睦爾撒納「叛乱」始末考（上）、追手門学院大学国際教養学部紀要 8、2015、41-73
⑥ 承 志、マンジュ語地図とシベリア古地図との出会い（木田章義教授退職記念特輯(第 2)）、国語国文 84(5)、2015、473-437

〔学会発表〕（計 6 件）

① 承　志、中俄恰克図条約研究、第二回国際満文学術研討会、2016.8.24～28 中国江蘇省無錫市
② CHENGZHI 、Chance Meetings Between Manchu and Siberian Maps 、New Directions in Manchu Studies 、2016.5.5.University of Michigan, Ann Arbor(アメリカ)
③ 承　志、ジューンガルとダイチン・グル

ンの国境交渉について、2016 年国際ワークショップ「ジューンガルに関する歴史研究最前線」京都大学大学院文学研究科附属ユーラシア文化研究センター（羽田記念館)、2016.1.23

④ 承　志、『皇輿全覧図』東北大地測量考－満洲語文書資料を中心に－、2015 年明清国際研討会、2015.12.9～13（台北中央研究院）

⑤ 承　志、ネルチンスク条約に関する古文書、第四回中国古文書学研討会 2015.10.23～25

⑥ 承　志、满文档案所見准噶爾烏嚕特鄂拓克、中国蒙古学学会、2015.8.5～8(新疆博楽市)

６．研究組織

(1)研究代表者　承　志　（CHENG　ZHI）
追手門学院大学基盤教育機構　教授

研究者番号：80455229

(2)研究分担者
なし

(3)連携研究者
なし